

「香椎保育所」さくら組の子どもの絵「わじろひがたであそんだよ！」

ご案内

★ 第27期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 ★

「和白干潟の自然と漂着ごみについて」

和白干潟には、全国の干潟では2か所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、雑木林、淡水湿地など干潟本来の景観が残っており、干潟の生きものが豊富で、渡り鳥の渡来地にもなっています。沿岸が開発されていないため、海底湧水が湧いていると言われていいます。和白干潟を守る会では、博多湾に残された和白干潟の大切さを、観察会を通して伝えています。和白干潟の観察会のガイドを育成するための講習会を開催します。室内とフィールドでの講習があり、自然を体験して学習します。参加をお待ちしています。（初心者歓迎）

とき：5月18日(日)13:00～17:00

受付：12:30 中潮 満潮12:15 干潮 19:17

集合：和白干潟を守る会事務所
(和白1-14-37、海のきりえ館1階)

講師：宗像 優 氏：九州産業大学教授

参加費：300円 募集：20名 雨天中止

持ち物：筆記具、飲み物、双眼鏡(あれば)

服装：長そで、長ズボン、帽子、長靴

主催：和白干潟を守る会

申し込み・お問い合わせ：TEL 090-8412-2663 (山之内)



クリーン作戦

2025年度「和白干潟を守る会」総会 報告 (今林 眞由美)

主な役員と事務局組織

2月22日に2025年度総会を開催しました。参加者は15名、山本代表が「和白干潟を守る会」の活動は36年を過ぎました。大切な和白干潟の自然を未来の子供たちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。観察会やクリーン作戦や干潟まつり、ガイド講習会などの活動を無事に続けることができました。

和白干潟のラムサール条約登録地をめざし、今後も希望を持って頑張りましょう」と開会の挨拶をしました。



役員		主な活動内容
会 長	鳥 ミヤコドリ	観察会 クリーン作戦 干潟まつり HP編集・通信 調査・写真 記録・会計 名簿・通信配布管理 助成金・監査 保全のつどい 山・川・海流域連携 資料点検
代 表	山本 廣子	
事務局 長	松田 元	
事務局 次長	田浦征太郎	
事務局 次長	今林眞由美	
会 計	山之内芳晴 田辺スミ子	
監 事	松藤真理奈 谷口 一郎	



2025年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます！

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。
2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。
3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。
和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

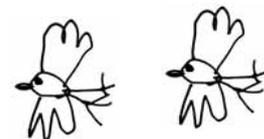
2024年度決算と2025年度予算

2024年度決算

当期収入は228万円で、主な収入は会費33万円、寄付金81万円、助成金105万円と事業収入が9万円です。当期は企業などから寄付金をいただきました。支出は223万円で、主な事業支出は通信、観察会、干潟まつりです。収支は5万円の黒字で、次年度への繰り越しは393万円となりました。

2025年度予算

当期収入は173万円を見込み、支出は208万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大切に使用していきます。



(単位：万円)

	2024年度 決算	2025年度 予算
当期収入	228	173
当期支出	223	208
収支差額	5	-35
前期繰越金	388	393
次期繰越金	393	357

和白干潟を守る会の活動を紹介します！ (山之内 芳晴)

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしております。

干潟で自然の大切さを伝える活動(観察会や干潟まつり)

学校や様々な団体の依頼を受けて、和白干潟自然観察会を実施しています。昨年は、5回の実施となり、延べ215名の参加がありました。また昨年11月に開催した「和白干潟まつり」は盛況で、約520名の参加がありました。



観察会

和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の15時~17時に、海の広場から唐原川河口までの範囲を中心に企業や学生を含む一般のボランティアと共に清掃し、清掃後には自然観察も実施しています。昨年は毎月定例のクリーン作戦のほかに観察会時の清掃も加えると年間15回行い、延べ648人が参加、663袋のゴミを回収しました。



クリーン作戦

和白干潟周辺の自然の調査

環境省、NPO法人バードリサーチ、JEAN(クリーンアップ全国事務局)などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。(鳥類9回、漂着ゴミ1回)



鳥類調査

和白干潟の水質調査と砂質調査(毎月実施)

下の表は2024年10月から2025年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはCODは5前後で最近の和白干潟では普通の状態です。透視度がやや悪い状態にあります。砂質調査については、表層酸化層が厚いほど砂質が良いこととなります。

水質調査結果 2024年10月~2025年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	5	4	6	5	5	5
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.005	0.005	0.02	0.01	0.01	0.01
透視度	cm	60	38	40	100	95	75

砂質調査結果 2024年10月~2025年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	2	9	9	17	32	28
還元層の黒色度	-	13	13	13	13	12	12
150㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	10	18	33	42	57	50
還元層の黒色度	-	12	12	13	12	12	11

山・川・海の流域会議

和白干潟を守る会は、立花山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川、この集水域全体を保全することが必要だと流域の保全グループに呼び掛けて、2012年7月に「山・川・海の流域会議」が発足しました。立花山から和白干潟までの4団体と個人で構成しています。2か月に1回定例会を開き、2024年9月には「唐原川お掃除し隊」を行い、2025年1月には「新春講演会」を開催しました。

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

- 1/5 「一般社団法人 未来2016」様より寄付金を頂きました。
- 1/29 「あいおいニッセイ同和損保(株)」様より寄付金を頂きました。
- 3/18 「イオン環境財団」様より助成金を頂きました。



ナワシログミ グミ科

ナワシログミは、海岸近くの山野に生えるそうです。和白干潟沿岸の樹林帯の縁で見られます。苗代を作るころに果実が熟すので、この名がついたと言われていています。葉の縁は波打っており、厚くつやがあります。葉のわきに数個の白っぽい花をつけて、秋になって開花して果実になり、翌年の5月頃に赤く熟して食べられます。和白干潟でもナワシログミの大きな木があり、たくさん赤い実が実ります。甘いけれど渋みもあります。小鳥たちが食べています。和白干潟沿岸には、アキグミというグミの木もあります。4～5月頃に花が咲き、10～11月頃に実が熟します。春も秋もグミが生って、小鳥たちを誘っています。



ナワシログミ

オキシジミ マルスダレガイ科 殻長：5cm 殻高：5cm



オキシジミ

日本全国の潮間帯から水深20mの砂泥底に生息しています。本州から、中国大陸まで分布しています。殻は丸くてよくふくれています。色は紫褐色や明るい茶色で、削れて白くなっていることが多いです。内湾の干潟に多い貝です。和白干潟にも多く生息しており、特にカラスのお気に入りの食材になっています。オキシジミを見つけては、くわえて飛んで行き、沿岸のコンクリートに落として、割って食べています。かしこいですね。沿岸にあるコンクリートの上には、割れたオキシジミの殻がたくさん落ちています。オキシジミの身は赤い色をしていて食べられますが、砂を吐かないので、噛むと口の中に砂が残ります。1cmほどの幼貝は薄紫色がかかった明るい茶色で、きれいな貝です。

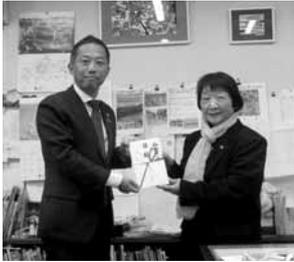
オバシギ シギ科 全長27cm 絶滅危惧1B類相当 (IUCN)

オバシギは和白干潟には春と秋に立ち寄る旅鳥です。ロシアの北東部とアラスカの西北部で繁殖し、日本では旅鳥として春秋の渡りの時期に見られます。雌雄同色で夏羽では肩羽に赤褐色の模様が出ます。貝類やゴカイ、甲殻類を食べます。和白干潟には10羽～20羽くらいの小群で訪れて、一緒に行動しています。秋よりも春の方が多いい羽数で来ている様です。滞在期間は短くて、10日間位のような感じです。会えたらラッキー！ですね。和白干潟を忘れずに毎年来てほしい鳥です。



オバシギ

以前は30羽くらいのオバシギの群れがやって来ていたので、少し減ってきているように思います。漢字では姥鷗や尾羽鷗と書くそうです。オバシギは世界で減少のスピードが速く、近い将来絶滅の危険性が高いそうで、IUCN (国際自然保護連合) のレッドリストで絶滅危惧1B類 (EN) にあたるそうです。



12月17日あいおいニッセイ同和損害保険(株) 寄付寄贈式

あいおいニッセイ同和損害保険(株)では、環境保護活動の一環として、ペーパーレス保険証券やWeb約款を導入し、その契約件数に応じて環境保護活動を行っている団体を支援しています。2014年よりその寄付金が頂けることになり、毎年いただきました。今年度も「和白干潟を守る会」事務所で寄贈式が行われ、同社福岡支店長から、山本代表が寄付金目録を頂きました。

1月18日 山・川・海の流域会議 新春講演会の報告

山・川・海の流域会議主催、新春講演会は、いつも和白干潟のクリーン作戦に参加いただいている九州産業大学教授の宗像優先生に「和白干潟における漂着ゴミの現状と対策」と題して講演頂きました。前半の「海洋ごみの現状」では、世界でプラスチックごみが800万トンもあることや、死んだクジラの胃から約40キロものプラスチックが発見されたこと、雨水の90%にマイクロプラスチックが混入していることなど、深刻な現状の話をお聞きました。

国際社会の動向としては年々海洋環境の保護が叫ばれ、海洋ごみや海洋プラスチックの削減が宣言されています。海洋ごみの発生原因は、国民生活に伴って発生し、それが山・川・海へと繋がる水の流れを通じて海岸へ漂着します。これらの漂着物は、我々の日々の行動や社会の有様を映し出す鏡のようなものであると言えます。発生抑止対策としては、沿岸部だけでなく内陸部での発生抑制対策が必要である為、ごみの適正管理や環境教育、啓発が求められます。(山之内)



ラムサール条約登録湿地を訪ねて ⑦ ベッコウトンボの生息地 (松田 元) 鹿児島県蘭牟田池(いむたいけ)

ラムサール条約に登録された干潟や湿地はどのような変化があったか聞いてみました。シリーズです。

やっと春の気配を感じる3月10日、鹿児島県の薩摩仙台市にある「蘭牟田池」を訪ねました。九州道を縦断し、うすい煙の桜島と錦江湾を横目に山間の標高295mの位置にある、周囲約4キロのカルデラ湖で、四季折々に姿を変える自然豊かな素晴らしいところです。ここは「浮島」と「ベッコウトンボ」が有名で、ベッコウトンボは、未熟な個体の体や羽根の色がベッコウ色であることが特徴で、成熟すると黒色になります。1994年に国内希少野生動植物に指定され、捕獲が禁止されています。蘭牟田池は1996年にベッコウトンボの生息地保護区に指定され、今からちょうど20年前の2005年に「ラムサール条約登録地」に指定されました。もう一つの特徴は、国の天然記念物に指定された「泥炭形成植物群落」で多くの植物が枯れて完全に腐らずに堆積したものが炭化した「浮島」と呼ばれるものです。



貴重な自然が残る蘭牟田池では、さまざまな野鳥が飛来し、多くの水中生物や野生の動植物が生息しています。特に池の西側にある湿原は、ベッコウトンボをはじめとするたくさんのトンボの産卵や羽化の場として、貴重な場となっています。蘭牟田池では、地元の人たちと行政が一体となってベッコウトンボの生息環境を守っているそうです。

● 気が付いたらあなたも電話してください!

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154 (港湾空港局・みなと環境政策課)

弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

092-643-3367 福岡県環境部自然環境課野生生物係

** お 願 い !! **

● 干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう!

● 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

● 犬のフンの始末は飼い主がしましょう!





活動日誌

(山之内 芳晴)

2024年12月

- 12/1 (日) 2024年度冬期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 12/3 (火) 干潟まつり第3回実行委員会/観察会グループ会議
- 12/4 (水) コスモ石油OB会歩こう会の和白干潟観察会
- 12/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 12/10(火) 和白干潟通信 152号編集会議
- 12/11(水) イオンイエローレシートキャンペーン
- 12/12(木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 12/13(金) 2024年度冬期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 12/21(土) 定例会議/和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 12/22(日) 第26期 和白干潟の自然観察ガイド講習会
- 12/24(火) 事務所大掃除



きりえ「コサギのおしゃべり」

ご案内

第21回

くすだひろこ きりえ 展

和白干潟のなかまたち

日時：5月1日(木)～5月31日(土)

11:30～15:00

会場：レストラン「花もも」(日祝休)

福岡市東区唐原3-7-6

TEL:092-673-0563

和白干潟のきりえ新作を12点飾っています。

ご高覧をお願いいたします

きりえハガキ14集

「和白干潟のなかまたち」

も販売しています！

くすだひろこは山本廣子の雅名です。

2025年1月

- 1/11 (土) イオンイエローレシートキャンペーン
- 1/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 1/13 (月) 2024年度冬期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 1/14 (火) 和白干潟通信152号発送会
- 1/14 (火) 2024年度冬期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 1/18 (土) 山・川・海の流域会議「新春講演会」
- 1/21 (火) 観察会案内状発送会
- 1/25 (土) 定例会議/和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 1/31 (金) 会計監査

2025年2月

- 2/9 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 2/11 (火) イオンイエローレシートキャンペーン
- 2/12 (水) 2024年度冬期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 2/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 2/22 (土) 定例総会/臨時定例会議/クリーン作戦と自然観察
- 2/25 (火) 和白干潟通信153号編集会議
- 2/27 (木) 2024年度冬期シギ・チドリ調査3回目(今津)

干潟のつばやき「干潟のアサリを大切に！」

以前は和白干潟にたくさんいたアサリ。近年は観察会で浄化実験のためにアサリを捕りますが、一人1個探すのも中々大変です。数年前は潮干狩りの人やアサリ業者もアサリ捕りをしていましたが、最近はアサリ捕りをする人も少なくなりました。五丁川河口に業者の船が係留されていましたが、中には転覆したまま放置されている船も見かけます。

先日、和白干潟にアサリはどのくらいいるのだろうか、海の広場の沖合と和白川河口で、振り網で干潟のアサリを調べて見ました。スコップで干潟の砂を振り網に入れ、砂を落として残った生きものを見る、この作業を繰り返しました。海の広場沖合では、2cmほどの1個のアサリを発見、和白川河口では、4、5回振りにかけたところ、アサリ2個、オキシジミ1個が捕れました。和白川河口では、アサリは思いの外居るようでした。残り少ない貴重なアサリ資源を、大事に保護したいですね。



12/22(日) 第26期和白干潟の自然観察ガイド講習会報告

「伝えよう、和白干潟の鳥のこと！」

1998年にも講師をしていただいた、日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ元レンジャー中村聡氏を講師にお招きしてお話をうかがいました。ご自身が子供の頃に周りの大人から自分の興味や関心を引き出してもらった経験から、「鳥を観察するときは、単にカワイイ、キレイだけでなく、鳥の



いろんなところを見てみよう。すると、他の生きものとの繋がりや生育環境への理解が深まり、自然を守ろうとする意識に変化が生まれる。自然観察ガイド活動で大切なことは、案内人の知識を披露するのではなく、コミュニケーションをとりながら、活動のお手伝いをし、参加者の関心を引き出すこと。また参加者に楽しく過ごしてもらい、関心を持続してもらいたい。」とのことでした。その後の干潟での活動はいろいろな視点で観ることができ、より興味深く楽しい観察会ができました。参加者11名。

★ 和白干潟のこと★④ 昔の五丁川 (今林 眞由美)

60年くらい昔、和白干潟にそそぐ五丁川河口の農地は「新開」と呼ばれ、クレークに囲まれた砂地の畑でした。岸にはススキ、アシやガマが茂り、時季になるとマツヨイグサやノギクが咲きます。川面には浮草の緑も広がっています。水の中はうじゃうじゃという表現がぴったりの、メダカやハゼの仲間の小魚、川エビやアメリカザリガニ、ミズスマシやアメンボがひしめいていました。人が行くとピチピチと音を立てて逃げていきます。男の子たちは竹の筒の罟を水中に仕掛けてウナギを捕ったりウシガエルを捕まえたり、泥水だらけになって遊んでいました。

春の五丁川の周りは、菜の花、レンゲソウ、青葱の畑が広がり、黄、ピンク、濃い緑の三色のモザイク模様になります。登下校時にこの色鮮やかな景色を見るのがとても楽しみでした。和白小学校近くの橋のそばから川に下りられて、野菜や農具を洗うこともできました。下りていくと、カエルやメダカはサッと逃げ、川底にはカワニナがいて、石をのけるとトンボのヤゴや、ゆらゆらとしたイトミミズの赤い集団がいます。フナやコイに交じって、海から遡ってきたイナと呼ばれるボウの子も泳いでいます。下校途中によく寄り道したものです。

川は上流に行くと、子どもがまたげるくらいの幅の水路になり、草陰にはドジョウや小ブナの群れが隠れ、大きなナマズや不気味な模様のライギョもいます。田んぼでは春はレンゲソウの花摘みやセリ摘みができ、秋には土手にススキの穂が揺れ、カワラナデシコの花も咲いていました。その水路は四十が浦池へと繋がっていて、命に溢れた自然の中で、思い切り遊んだものです。五丁川が三面をコンクリートに覆われず、潮止めの堰もなく、海と繋がっていて、美和台がまだ田んぼと山だったころのお話です。

守る会問い合わせ窓口

入会 / 観察会(申込等)
クリーン作戦
広報 / 調査 / 定例会議
干潟まつり

ホームページ : <https://wajirohigata.sakura.ne.jp>

山之内 芳晴 Tel 090 - 8412 - 2663
今林 眞由美 Tel 080 - 1761 - 3924
山本 廣子 Tel 092 - 606 - 0012
松尾 満子 Tel 090 - 9651 - 8489



お知らせコーナー

春の観察会「和白干潟を歩こう」

和白干潟を歩きながら植物や野鳥・生き物たちを観察します。

- ・日時：4月19日(土) 10:00~12:00
- ・集合場所：和白干潟の海の広場
- ・問い合わせ：090-2397-1424 (松田)
- ・主催「山・川・海の流域会議」



観察会

和白干潟のクリーン作戦のおさそい!

- ・日時：4月26日(土) 15時~17時
- 「全国春のビーチクリーンアップ2025」「2025干潟・湿地を守る日」参加
- ・集合：和白干潟海の広場 (東区和白4丁目海岸)
- ・主催：和白干潟を守る会 ・問い合わせ：080-1761-3924 (今林)



クリーン作戦

定例スケジュール

●定例会議 (4/26, 5/24, 6/28)

毎月第4土曜日12時~14時 守る会事務所にて開催。
和白干潟を守る会事務所…福岡市東区和白1-14-37

以下は参加自由です。仲間が待っています!

●クリーン作戦と自然観察 (4/26, 5/24, 6/28)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利。駐車場なし。

●和白海岸探鳥会 (4/13, 5/11, 6/8)

毎月第2日曜日9時~12時 JR和白駅前の和白公園集合
参加費：一般300円 中学生以下は無料 野鳥の会会員100円
主 催：日本野鳥の会福岡支部

会員募集中!

年会費 個人 2,000円
団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。
参加をお待ちしています!

和白干潟の鳥たち(その109)

ウミアイサ(カモ目カモ科 / Red-breasted Merganser) 海秋沙 [全長55cm]



(写真撮影：三宅 僚)

ウミアイサは冬鳥として秋に和白干潟に渡ってきます。越冬して春にはまた北へ渡って行きます。玄界灘の外海でも見られますが、内湾や河口、内陸の池にも入ります。和白干潟では数羽から十数羽の群れで行動しています。潜水して魚類を捕ります。潜る前に水面で顔だけを水中に入れて魚を探します。くちばしにはギザギザがあり、とらえた魚をのがしません。

春先には雄の赤いくちばしを上に向ける求愛ディスプレイが見られます。雄も雌もボサボサ頭の冠羽があり、可愛いです。雄の冠羽は緑黒色で、雌の冠羽は茶褐色です。雌雄共にくちばし、目、足は赤色です。秋沙(アイサ)は日本で生まれた名前だそうです。姿も動きもステキで絵になる鳥ですね。

(山本 廣子)

【編集】今林 眞由美・松藤 真理奈・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子・松田 元
《カット》「香椎保育所」の子どもたち・くすだひろこ

次号は2025年7月発行予定



【編集後記】最近、日本には外国から多くの観光客が押し寄せています。日本の魅力は四季折々の自然の風景にあると思います。和白干潟は自然海岸を残す数少ない干潟です。絶対に残したい、守りたい自然風景だと思います。(松田 元)

